

(4) 成果の発表

ア 高校生フォーラム

概要：12月19日にオンラインで、文部科学省、筑波大学主催の全国高校生フォーラムに参加した。海外の高校も含めて120校が参加し、ポスターやスライドなどを用いて発表を行った。また、専門家を交えてグループディスカッションを行い、活発な意見交流をおこなった。進行や発表、ディスカッションはすべて英語で行われた。本校からは、2年生で「いのちの輝きを未来に伝える」ゼミで、サクラの害虫であるクビアカツヤカミキリに着目し、その生態、分布拡大および防除について取り組んでいるグループが発表した。



発表の様子 1



発表の様子 2

発表内容：発表内容についての英語と日本語の要旨を以下に掲載する。発表は英語でおこなわれた。今回発表を行ったグループは、校内で選考を行い選抜した。英語による発表は、本校に在籍するネイティブスピーカーの教諭による指導を受けた。なお、本研究は、地元で河川清掃を行う団体と共同で調査を行った。更に、奈良県のサポートを受けて、講師派遣を受け、現地で調査方法についての指導を受けた。

日本語要約

バラ科の樹木を食害するクビアカツヤカミキリは、特定外来生物に指定されている。近年それによる桜の枯死が全国に広がり、奈良市内でも蔓延が危惧されている。本研究では、奈良市でも桜の名所として知られる秋篠川上流域へのクビアカツヤカミキリの侵入をモニタリングし、その蔓延を防止することを目的としている。また我々は本研究を通じて、外来生物を駆除する解決方法だけでなく、我々の生き方を見直し、共存の方法も模索する。

英語要約

The purpose of our research is to prevent future damage by the *Aromia Bungii*, which is an invasive alien insect, from expanding toward the whole prefecture. We have monitored cherry blossom trees along the Akishino River and checked if there are any signs of invasion. Early detection and proactive measures are essential before it's too late. However, not only we have a tendency to get rid of things that often get in our way, but we should also find a way to coexist with those living things around us.



調査の様子 1



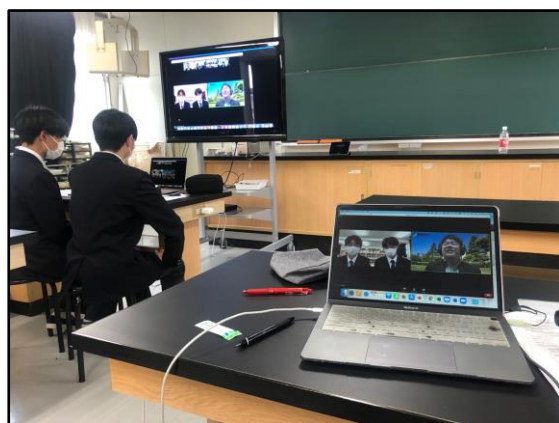
調査の様子 2

イ 探究甲子園

概要：3月19日にオンラインで、文部科学省、関西学院大学主催のWWL・SGH探究甲子園に参加した。事前審査を通過した40校が参加しスライドなどを用いて10分間の発表と10分間の質疑応答を行った。発表後は、同じグループで発表を行った5校が専門家を交えてグループディスカッションを行い、活発な意見交流をおこなった。本校からは、2年生で「いのちの輝きを未来に伝える」ゼミで、ボルネオの環境学習と社会心理学を関連付けて探究を行っているグループが発表した。発表は日本語でおこなわれた。今回発表を行ったグループは、校内で選考を行い選抜した。



発表の様子1



発表の様子2

発表内容：事前審査で提出した要旨を以下に掲載する。また、本研究の活動の様子を以下に示す。

私達は1年生のときに、授業でボルネオの環境問題について学び、自分たちにできることについて考え、実践しました。しかし、授業が終わったあと、自身を含め多くの生徒が、ボルネオの環境問題を日々意識したり、環境に配慮したことを実践しているかと言われれば、そうではないように感じます。RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)とは、持続可能なパーム油生産を目指す団体であり、この団体が認証した製品を使用することは、熱帯地域の森林保全に対して、日々の実践としては誰でもできることです。「一貫性の法則」とは、「行動内容と一貫するように態度が変化する」という、商品のマーケティングで使われている方法で、社会心理学の分野で研究が行われているそうです。私達は、この「一貫性の法則」をつかって、生徒全員が1年生で学んだことを意識し、自らの意思でRSPO認証のハンドソープを使用できるような取組を行っています。



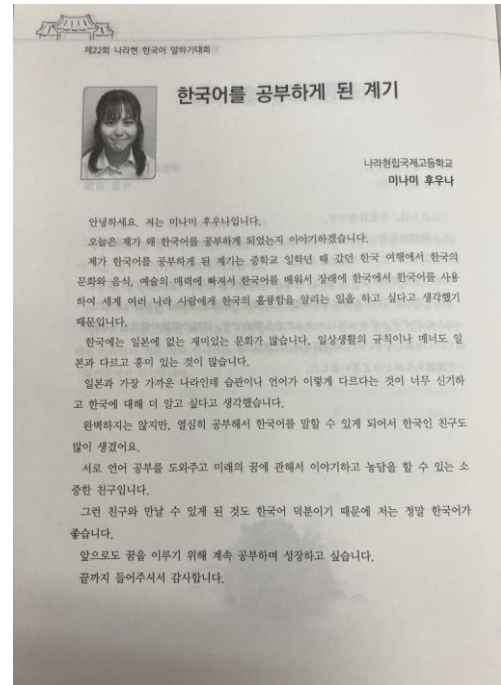
調査の様子 1



調査の様子 2

ウ 奈良県韓国語スピーチ大会

- 1 目的： 韓国語選択者が授業内でスピーチを作成し、奈良韓国教育院主催の大会に出場することで韓国語のコミュニケーション能力の向上を目指す。
- 2 日時： 令和3年11月20日（土）
- 3 場所： 奈良県韓国人会館
- 4 参加者： 2年生韓国語選択者のうちの希望者10名
- 5 結果： 金賞1名 銀賞1名



エ 世界の言語 学会発表

概要：7月8日にオンラインで、9th International Congress of the EDiLiC Associationに参加した。同学会は多言語教育についての学会であり、ギリシャが主会場として開催され、世界各国から参加者がオンラインで参加した。奈良教育大学教職大学院吉村先生とともに、本校校長中尾雪路、教諭水本祐之が発表を担当した。「世界の言語」についての取り組みと評価について、およびそれによる生徒の変容について英語で発表を行った（写真①②）。



写真①



写真②

発表内容：発表内容について、以下に要約する。発表は英語でおこなわれたが、発表スライドは多言語話者に対応するために、フランス語で作成した。発表では、専門的な内容だけでなく、本校の紹介を行うとともに、動画や音声を用いて生徒の活動についても説明した。発表に用いたスライドの一部を以下に示す。

日本の高等学校における複言語教育実践の試みおよびその効果を検討する。第一に、実践の背景として、複言語教育における「能力」および「価値」としての側面を確認する。第二に、その議論に基づきながら、英語以外に5言語を必修とする外語授業に言語意識活動および日本手話を加えたカリキュラムを紹介する。第三に、このカリキュラムを1年間経験した生徒たちの、言語ポートレート、言語能力の自己評価、言語についての気づきを分析し、我々のカリキュラムが複言語教育のそれとして機能しうることを示す。

